広島大工大
同窓会会報

広島市外五百市町三宅
広島工業大学同窓会
発行者　重男
編集者　陣之介
印刷　山江孝博
印刷株式会社
中原
片松
松井

第7回定期 総会報告

第七回 定期総会開かれる

会の発展は会員諸氏の双肩に!!

〝正会員、準会員共に深いつながりと信頼を〟

去る四月二十九日（土）日本生命ビル内にて、第七回定期総会が開かれた。そこで、会長である中原氏は、現在の広島工業大学同窓会の為について、次の様な史を述べている。中原会長―多々の会員を、発展している今日迄ありますが、本同窓会にて、出席者の少ないことは、非常に残念なことであります。この出席者の少ない原因として、今日の様な、人間的なつながりの少ない時世が、会員間のつながりと信頼を薄められていることが考えられます。四千人余りの会員を持たなければ、人の相互間のつながりの少ない、苦しい形態の中では、本同窓会も成立していかないであろう。しかし、教えるべき者と、教えられる者との人間的つながりは、なくなることはないはずであります。母校が、その人々に、又同窓会の仲間に感じるなつかしみは、必ず会員諸氏の心のつながりを生みだすはずであります。四十六年度は、同窓会の会員に近い年度卒業生の会員に近い会員が多いこと。現在の同窓会は、会員諸氏の深い心のつながりと、信頼と共に財政的な裏づけも必要としているのは事実でありますが、なにはさておいても前者の深い心のつながりと、信頼は欠くべからざるものでありましょう。

今回は、少ない人数の総会でありましたが、当年とって七才とあいなり、そこで、会員諸氏の双肩に、今後も更に発展させて行きたいと願い努力していきます。

又、名誉会長鶴学長も同会に、御出席され、次の様に語っています。

鶴学長―会長の挨拶―「残念に思います。同窓会も創立かすでに七年目になり、会員の母校への友情のつながりが、本来この同窓会の発展を呼ぶものと思う。本学内の近況としては、図書館等の教育環境も整備されつつある。現在大学の問題としては、なにより教育の充実という点になる。中堅層の教官の少ないことに問題点があるが、教官方の私学たる点を考えて欲しい。又、大学として、長期的な問題も、長い目で見ていく必要があり、資金面上の問題も決行の点があれば援助したい。同窓会は今後とも会長と共に発展していくように思います。」

会長語る

一、同窓会々報第六号発行
昭和四十七年
広工大付属図書館に送る

〝昭和四十七年度 活動方針〟

会員諸氏及び新役員によって、昭和四十七年度の活動方針が審議検討された。その内容については、

一、会員名簿の作成（調査中）
一、同窓会館設立の準備
一、同窓会々報、会誌の発行
一、支部結成の奨励活動
一、学内（自活会）援助活動等

次の項目が新役員から提案され、内案には異議なかったが、次の様な一～三の質疑答弁が行なわれた。

会員　支部結成の規約は、いかなるものか？

役員　支部結成の動向として、関西・福山・職域支部等があるが、人数は十名以上、支部規約、会員名簿及び活動予定等を本部に提示した後、役員会で承認を行なう。

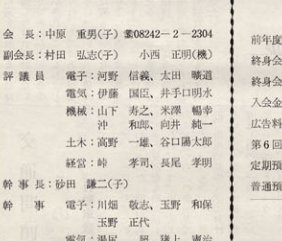
会員　バスケット部等の遠征活動に対する連絡網は？

役員　会員間で、地域的に連絡員を選任する。本部では、会会員に連絡することは職能的に不可能です。従って連絡員に対する情報提供によって、地域的な連絡方法をとらざるを得ない。

この後、全会員によって同窓会を発展させようと、盛り上がった後、直ちに懇親会が開かれ、多数の先輩方と、会員の間で、歓々談話しにこやかな一時を過ごしました。

会長挨拶中原重男

懇親会



〝昭和四十六年度 活動報告〟

一、自治会活動における賛助活動として、昭和四十六年大学祭援助、昭和四十七年体育祭援助、昭和四十七年卒業式援助、昭和四十七年度定期総会援助。

一、同窓会々報第六号発行
昭和四十七年
広工大付属図書館に送る

一、昭和四十六年一月一日　同窓会々報第五号発行
一、昭和四十七年三月二十七日　同窓会々報第六号発行

次いで、会計報告、会計監査報告及び会計報告の審議が行なわれ、会員側、両書共に会員側、会員側にいては会員改正の提案がかったこその後、役員の改正が行なわれ、新役員が選決された。

（別表）

昭和46年度会計報告（S46.4.1～S47.3.31）

《収入の部》

前年度（46年3月31日締）繰越金	5,661,971
終身会費（45年度分、622名、5000円/1人）	3,110,000
終身会費（46年度分、961名、6000円/1人）	5,766,000
入会金（46年度分、915名、500円/1人）	457,500
広告料（第5号会誌記載、30件）	248,500
第6回同窓会総会の懇親会会費）	107,500
定期預金利息（広島相互、山口銀行）	314,834
普通預金利息（広島相互銀行）	45,764
計	15.712.069

《支出の部》

第6号同窓会会誌発行費（4600部）	223,000
第5号同窓会会報発行費（8000部）	64,000
通信費（ハガキ、切手代、会誌、会報発送費、電話料等）	137,688
会議費（役員会3回、日当、交通費、茶菓）	38,155
交通費（広告依頼、広告代募金に関する交通費等）	13,530
消耗品費（写真代、用紙代、終身会費納入の振替票作製費等）	26,075
記念品代（灰ざら1000個卒業生へ贈呈）	350,000
支部運営費（関東支部）	30,000
第6回総会及び懇親会会費（立看板製作費等を含む）	193,190
アルバイト代（会誌・会報発送に関して）	8,100
諸費（謝礼、会計手当、会報発行責任者手当等）	23,000
自治会援助金（体育祭、大学祭、クラブ遠征援助費等）	237,500
大学援助金（新図書館へミロのビーナス像を贈呈）	400,000
記念品代（久保先生へ贈呈）	10,000
小計	1,754,238
残高	13,957,831
計	15.712.069

昭和47年度 予算案

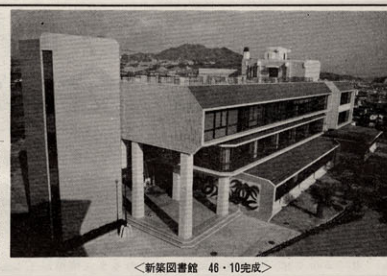
会誌代	300,000円
会報代	100,000
通信費	300,000
会員名簿発刊費	500,000
会議費	80,000
交通費	30,000
自治会援助金	500,000
卒業記念品代	350,000
消耗品代	30,000
会計手当	15,000
会誌発行責任者手当	5,000
会報発行責任者手当	2,000
予備費	11,745,831
計	13.957.831

昭和47年度同窓会役員名

会長：中原　重男(子)　業08242－2－2304
副会長：村田　弘志(子)　小西　正明(機)
評議員　電子：河野　信義、太田　暁道
電気：伊藤　国臣、井手口明水
機械：山下　寿之、米深　暢幸
沖　和郎、向井　純一
土木：高野　一雄、谷口陽太郎
経営：岸　孝司、長尾　孝明
幹事長：砂田　謙二(子)
幹事　電子：川畑　敬志、玉野　和保
玉野　正代
電気：湯尻　照、猪上　憲治
原田　義治、沖根　光夫
機械：片山剛之丞、松江　孝博
森滝美治郎
土木：伊藤　秀敏、浅野　仁司
大政　求、横村　邦男
建築：菅原　辰幸、斉木　宗八
杉谷　康男
経営：西田　弘展、河井　久
前田伊津子、広重　隆
近宗　貴
書記：神野　康夫(機)、重広　孝則(子)
会計：中西　助次(機)、砂原　照雄(機)
会計監査：赤木　厉義(気)、玉田　康荘(機)
木村　一彦(機)

21世紀へ通ずる 超一流の図書館完成

附属図書館　城　太郎



＜新築図書館　46・10完成＞

スケールの面からも、設備の面からも、超一流のデラックスなもので、西日本随一の図書館である。思えば創立当初のA号館時代（現在の十一号館三階）F号館時代（現在の9号館三階）の住まいで始学に努められた卒業生諸君にはあまりこの表現はふさわしくないかもしれないが、母校にかくも素晴しい図書館の完成を見たことを誇りとせられ、一層のご健闘を願いたいものである。

同窓会より贈られた「ミロのビーナス像」には「心に愛を」の文字が深く刻まれ、正面玄関の卓抜なデザイン「十字架」レリーフの「愛のトーテム」とともに本学の建学精神を表現するもので、一段と光彩を放つ。

世移り、人変って、図書愛好者の数が年々増加しているなかで、無関心型も相変らずお多いようである。

ことであろう、工大生の学力が伸びて、わが学園の見直される時機の到来が楽しみである。

待望久しかった新図書館が昨秋十一月完成し、本学正面入口の前に設置された小山が切り開かれて建設の優雅、モダンな建物は美しい学園の景観をひときわ引き立てている。

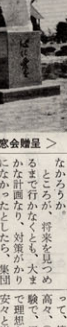
学生数およそ四、〇〇〇人を収容する教室や実験室、一昨年は武道館が建て替えられ、さらに武道館の増築は、これまで学の校舎施設は一応完備したわけである。

新図書館は、オープンシステムの採用、コピーサービス、AVの導入など二十一世紀へ通ずる拠点たるべく周到新の設計が工夫された。その概要次に紹介したい。

構造　鉄筋コンクリート三階建て、外壁には全国でも珍しい白セメントが用いられ、窓は大きく、熱線吸収ガラスが用いられている。

延床面積　四一八〇㎡（二二七〇坪）

設備　全館冷暖房　エレベーター（書庫用）



＜同窓会贈呈＞

しかし、図書館へ行ってみようか」というやかした型のパラマウントブックの絵画設置（一階）自習室（二階）館長室（事務室）情報資料室（三階）機械室（三階）カウンター（一階）ロビー（一階）カウンター（一階）カルーム（二階）閲覧室（開架式二〇〇、〇〇〇冊）書庫（積層式五層　十七万冊）第一閲覧室（開架室　新聞閲覧コーナー　更衣、湯沸室）第二閲覧室（開架室　共同研究室（二室）教職員閲覧室）L・Lブース　視聴覚室　会議室　特殊コレクション　容能力　十七万冊

同窓会 ―会員だより―

我が職場「鋳造」

44年3月卒　機械工学科

三木　斐

緑なる二宅を革兼ねはやり入れ、鋳造自動化を機械数年、我々に続いて工大を卒業されたOB諸君が、次々と改良の金鳴りさせ出て活躍している。入社当時会社を左右する鋳造工場は、公害問題、等で電気なくなる程度の自安がきないというくらい環境の改善を迫せまられているのである。

高温とほこりの多い職場であるが、しかし、僕はそんな頭は持ちあわせていない。

やはり鋳造工場のガンである。

鋳造は人手不足、人件費の高騰、削減しても生産数は下げられない。小中企業の鉄鋼業は、そんな状況を乗り越えるべく、オートメーション化、機械化の方向へ進んでいる。

これからの鋳造は人手不足、公害問題、等で電気なくなる程度の自安がきないというくらい環境の改善を迫せまられている。

高温とほこりの多い職場であるが、しかし、僕はそんな頭は持ちあわせていない。

「不良品を少なく」人員を削減しても生産数は下げられない。小中企業の鉄鋼業は、そんな状況を乗り越えるべく、オートメーション化、機械化の方向へ進んでいる。

これからの鋳造は人手不足、公害問題、等で電気なくなる程度の自安がきないというくらい環境の改善を迫せまられている。

「不良品を少なく」人員を削減しても生産数は下げられない。小中企業の鉄鋼業は、そんな状況を乗り越えるべく、オートメーション化、機械化の方向へ進んでいる。

もっと聞いて欲しい若い声

45年3月卒　経営工学科　辻　秀策

古さ、もっといえば、古い。例えば、ある会社があるとする。私の職場を見ると、部会などがあっても、先輩諸子の意はかなり強く、我々弱輩の意は聞かない。彼らとて、決して我々の意を、我々弱輩の意を、怒りと受け流すと覚えない。

若い時は何ができるかに、期待を抜きにして、何しら引き出せるものを、と思いたい。ほんとうに役頭した、ほんとうに生産的な、自分の青春を燃焼させたい、と思わずに、ようなものだ。

仕事に参与させる、「自分」なら上司の能力を伸ばしてあげる。

上司に対して、「自分」の能力が、約七〇%を占めているというとこで、これは、「自分」の能力を信じて、なるべく若い人を指導、できれば、若い人を指導できないのの裏返しである。「いっとやる気を、引き出せる」ことは、古い体制の殻を破る一方法である。若い世代の新しい息吹きを迎えてはどうでしょうか。

か、若い者の言い分も、一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、これを、逆と認めながらも、これを受け入れるほどの寛容さが、ないのは、どんな理由によるのであろうか。

どんな会社であろうと、自分を仕事遂行上の一道具と、かしか見られない。とすれば、自分自身がどんなに、わ、我、弱輩の、怒りと覚えない、人は、ないのである。

「自分」が、ただ、ただ、ただ

笠松儀三郎教授のご逝去を悼む

弔辞

音もなく静かに降り続いた春雨に、ジョトリリぬれた緑み濃い葉が、物悲しく開の中にうなだれていて、広島工大学教授笠松儀三郎先生は、忽然と大自然を逝けられ、七十三歳の生涯にあずかり、終止符を打ちました。生き残りました私共にとりましては真に痛惜に堪えます。悲しみの為です。

広島は学生部必誠会者定離と申します。このわずか、数ヶ月前、万々ならず情ではありますが、生前に極めて感情的な寂寞や空虚を覚えさせるとは想像もつかない悲しみでありました。本学といたしましては、機械工学科設置初期の正教授として就任戦まもなく、昭和二十年、全く片翼を失った鳥のように、虚脱感の中に、そして、今さらの如く、先生が本学内に残されたウイートを非常に強く感じるのでございます。

先生の真に物静かな清廉足りりの人格を拝承します。大学キャンパスの何処にお姿をみるのでしょうか。先生は常に微笑を満面に、極めて柔和なお顔でありました。そのご風格は理論の厳さと異なり、常に次元の高い遠い彼岸を見つめておられ、見えない手によって定められ御霊魂はにるけ走天空から思いを馳せられて、先生の冥福をお祈りします。

先生の学問的な性格は、ジョトリリぬれた形面下的な思考で、先生の手を取り、話を承ることはできなくてもいいから、先生の生一層のご加護を賜わりますようお願い致します。

先生の残された学問的なさまざまな業績、展開させるため一層の拍車をかけ、ご遺族の皆様に、組立の一貫作業を願いたいとおります。先生、何卒将来にわたり、十五名ご子息の学の課題の様相を見届けてください。

以上、私の気持の上の整理もできないまま先生の墓前にいさぎよく、製品の流れ、構造等、種々な事を身に付けられたのであります。

実習中はにかく油まみれになり、言葉の通じない、各職場の方々の、チームを合理化を行なってくれた通り、指示された通り動かなければなりません。

一年間は仕事を覚えるに、一生懸命の出来ない、そして二年に一回社内の各後の歩みについても、科の各後の歩みについても、ご御霊魂はにるけ走天空から思いを馳せられて、先生の冥福をお祈りします。

先生の残された学問的なさまざまな業績、展開させるため一層の拍車をかけ、ご遺族の皆様に、組立の一貫作業を願いたいとおります。先生の学恩に報いる意義であると深く確信しております。

先生、何卒将来にわたり、十五名ご子息の学の課題の様相を見届けてください。

以上、私の気持の上の整理もできないまま先生の墓前にいさぎ、製品の流れ、構造等、種々な事を身に付けられたのであります。

実習中はにかく油まみれになり、言葉の通じない、各職場の方々の、チームを合理化を行なってくれた通り、指示された通り動かなければなりません。

一年間は仕事を覚えるに、一生懸命の出来ない、そして二年に一回社内

昭和四十七年五月二十日記松田和夫

故笠松儀三郎教授のご履歴書はこのとおりです。

本籍　和歌山県田辺市大字片町一一九番地
現住所　山口県宇部市西区亀浦

笠松儀三郎

明治三十一年一月二十六日生

大正　六年　三月　和歌山県立田辺中学校卒業
九年　七月　第私高等学校第二部文類卒業
十二年　三月　東京帝国大学工学部造兵学科卒業
十三年　四月　東京帝国大学大学院
十一年　四月　文部省航空研究所嘱託
十三年十一月　文部省造兵廠嘱託
十一年　三月　東京東京帝国大学航空研究所技手
昭和　二年　三月　任山梨高等工業学校教授
三年　七月　内閣官房研究の為渡欧
六年　六月　内閣機関研究の為渡欧
八年五月～九年一月　伊太利国及び米利加出発
十四年　六月　国を在留国に追加す
九年　七月　任宇部高等工業学校教授
十九年　四月　叙高等官三等
十九年　四月　勅令第一六五号官制改正により宇部高等工業学校を宇部工業専門学校に改む
二十一年　四月　任文部教官、叙三級、補宇部工専教授
二十三年十二月　教授会審議会特別委員会に於て教授と判定される（六月燃機関自動工学）
二十四年七月　兼ねて山口大学教授に補する
二十五年七月　山口大学工学部長に併任する
二十四年三月　山口大学工学部長に併任する
三十四年五月　山口大学工学部長に併任する
三十七年五月　講師（宇部工業専門）に併任する
四十年　四月　辞職を承認する
四十年　四月　広島工業大学教授に補する
四十年　四月　機械工学科主任教授を兼職される
四十年四月　文部省外令
四十年　七月　退職した（死亡による）
昭和四十七年五月二十日記松田和夫

〔近況報告〕

デルタ工業　同窓生一同

広島工業大学同窓生の皆さん日は！

我々のデルタ工業は、自動車部品、毛糸編物機の設計、製作、組立の一貫作業を行なっている会社です。

三年前、二名入社したのが、現在四年目になります。配属されている二年、三年を経つうち、仕事にも慣れ、現在の、やり方ではまずいかと考える様になります。

（我々は社会的化の中に、合理化、省力化出来ない、合理化の プロジェクトチームを作り、職場の改善、合理化を行なっている。

こうった作業に慣れ、こうった事に慣れ、こうった事に慣れ、仕事にも慣れるのだろうが、慣れるのも必要の、初心心を忘れてはなりません。

入社時、自分は希望と抱負を持って職場についたが、周囲の環境にそまるというか、なーるだ、この程の会社の実情にはいつの間にか最初のたてた計画の通りにはいかない事が多いのに、そのことを、いつかなーるだ、と思い、いつかは、と、自分の力量の不足を感じ、自己の成長を、いつかは、と、自分の力量の不足を感じ、自己の成長を、いつかは、と、自分の力量の不足を感じ、自己の成長を

自治会だより

自治会

我々が、十一期執行部として既に九カ月が過ぎてしまった。大学会図書館が大学祭が開催されるこの年は、はぼ施設も整ってきた。内部の充実・研究人材、蔵書、資料はたくさんの新しく成長してきている。それは学内において、我々が基本方針に掲げた一国治意識の高揚に、貢献に徹、高揚してきている。それはサークルの経済的困窮へ、学内における自治会への積極的な援助を図るものであります。各クラブ、サークルの未来展開しております。それと同時に同窓会の準会員による自治会への積極的な援助を図ってゆきます。それと同時に同窓会の参加を図るべく第可能な限り参加致します。

ため、残りの三カ月を全力で執行いたしたいと思います。

五月に体育祭が盛大に催されました。

本年は、昭和学生会館が完成、学生会館の運営に対する、学生の自治会への参加を図ってゆきます。

最後に同窓会の発展と、諸先輩の活躍を願ってペンを置きます。

会員名簿作成のお知らせ

本年中に会員名簿を作成いたしますので同封の葉書に記入の上、十月三十一日までに必らず返信して下さい。

自治会体育局

学内において、我々が基本方針に掲げた一国治意識の高揚に、貢献に徹、高揚してきている。それはサークルの経済的困窮へ、大は財政に発展しております。それと同時に同窓会の準会員による自治会への、積極的な援助を図ってゆきます。各クラブ、サークルの未来展開しております。

最後に同窓会の発展と、諸先輩の活躍を願ってペンを置きます。

自治会文化局

広島工業大学自治会文化局は、今年で九年目を迎えいるのです。

今年の文化局の主な行事として、七月に行なわれる定期演奏会と街開祭があります。

文化局は、三つのサークルがあって、毎日、文化活動に努力を重ねています。現在、同目を迎えようとしています。

文化局に所属しているサークルは、三つのサークルがあります。

各々音楽関係サークルは、毎日遅くまで練習を重ねるが、中でも、ブラスバンドは、少しずつ前に勝ってきました。と努力して数の少ないサークルが、部員は数の少ないサークルがあります。

また、ブラスバンドは、一人、一人の個性を活かし、一人一人の個性を生かし、一人一人の個性を生かし、一人一人の個性を生